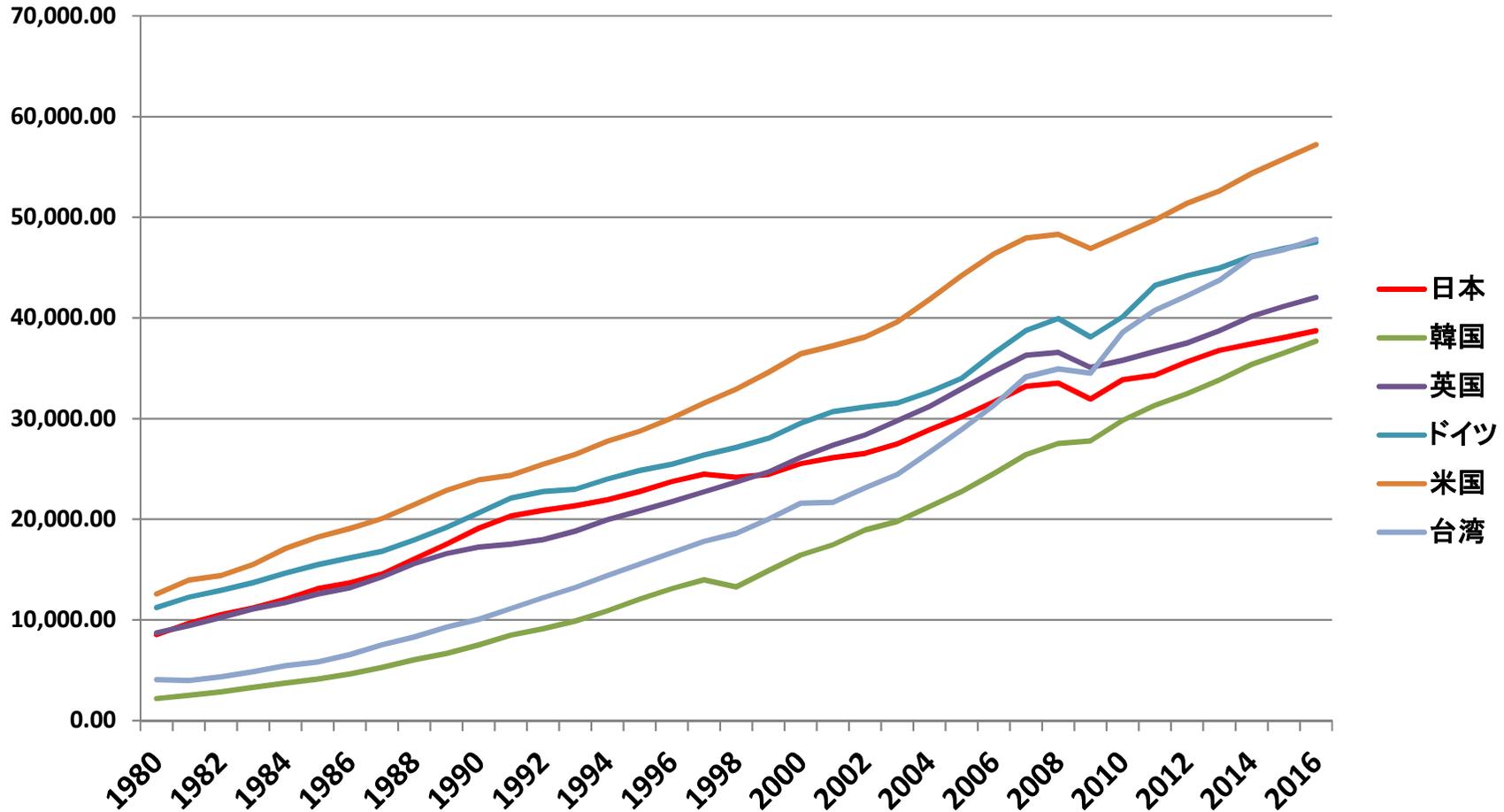


産業界から見た共同研究の大型 化を加速する上での課題

(株)ギガフォトン 元社長 渡辺 裕司

一人当たりのGDP(購買力平価 US\$)



日本は80年代より恒常的に生産性競争力が低下する構造的な問題を抱えている。イノベーション政策の失敗。

大学の役割

- 教育
- 研究
- 社会貢献

大学は社会貢献については抽象的で明確な活動指針を持っていない。

戦後、大学は教育と研究さえやれば社会がそれを受けて研究成果を役立てるとの楽観的お任せ主義が蔓延した。

欧米に発展モデルがあった追いつき時代は大学が全ての人材を供給した。特に戦中の技術者教育は新技術の即戦力養成が特徴的だった。80年代までこのような人材が活躍した。先進国の仲間入りをし、発展モデルを自分で作る時代になったにもかかわらず大学と社会のかい離が著しくイノベーション人材の欠乏が続いている。

最先端の技術はそれを社会実装する人材を同時に提供しないと社会に浸透しない。

社会、企業の事情

- 80年代に高度成長が終わっても相変わらず20世紀初頭に起こった産業(重工業、エネルギー、自動車、化学、電気など)を守っている。大企業は需要と安価な労働力が無くなった日本を離れ海外に活動を移している。会社は繁栄し、日本経済は停滞する。
- 先頭グループは20世紀に起こった技術(マイクロエレクトロニクス、情報、ロボット、人工知能、バイオ、新材料)の産業化に努力し、すでにその成果が出始めているがまだ規模が小さい。成長率と収益性の高い産業をもっとスピーディに広く社会実装する構造が貧弱。**21世紀型の産業創出と拡大**
- 数千~万人の従業員を効率よく活動させる大企業経営と新技術を産業化する経営は全く違う。これを同時に行った成功事例はほとんどない。**知識産業型人材**

産学連携の活動

大学に必要なもの

科学技術の基礎力は十分にある。それを生かして産業発展を促そうとする意志と人材が欠落している。

- **スピード** これらは互いに関連しあっていて三つ巴
- **特許** で回っていく。これを取り扱える人材を養
- **市場情報** 成する。

研究論文で評価を得ることだけに固執している。産業発展に対し責任を感じていない。大学が産業発展を正面から自分の課題として活動しなければ社会と大学はともに衰退する。研究のための研究で発展すると思うのは国立大学の思い違い。新技術と新人材の供給は大学以外できない。

- **スピード**

スピードは研究でもビジネスでも同様に重要。ただし、ビジネス全体から見ると研究開発は最前線の活動で先頭馬が遅くては競争に勝てない。全体のスピードを決める責任を背負っている。産学連携は専任研究員でなければやれない。

- **特許**

大学は特許を取らなければ産業応用からは見返りが取れない。単独特許に拘るべき。Win-Winの関係はこれに基づく。

- **市場情報**

社会の動向を無視して大学は存在できない。ましてやビジネスの方向性は社会ニーズを掬い上げなければ失敗する。社会動向に無関心な大学は蛸壺化する。

研究コーディネータの仕事

- 技術シーズの発掘
- ビジネスモデルの検討(大学&パートナーはどこまでやるか)

設計請負、製造だけ、販売だけ、サービスビジネス、技術ライセンス、技術コンサル、レンタルなど
彼我の競争力を分析し戦略を考える。その結論からパートナー、特許の重み付け、集める人材と組み合わせ技術が変わる。ここが研究管理の肝。

- 単独特許取得に拘る
- 研究計画、日程表管理。
- 絶えず戦略を見直しながら進む。